

映画「男はつらいよ」シリーズで知られる山田洋次監督が、広島市中区であった日本精神神経学会の市民公開講座で講演した。テーマは「寅さんとメンタルヘルス」。

寅さんを演じた故渥美清さんとの思い出を振り返り、聞き上手だった渥美さんを「天性のカウンセラー」と評した。

(平井敦子)

# 病んだ心癒やす「寅さん」

## 山田洋次監督「天性のカウンセラー」渥美清さんを語る



「(渥美さんの聞き上手は)天性だった」と語る山田監督 (撮影・天島智則)

テーマの「寅さんとメンタルヘルス」がどうつながるのか。

年に、自身も小学生の時、自身が弱く長期欠席を繰り返していたと伝

う」と語り、「カウンセラーとして最高の人」と評した。

渥美さんはロケ先の旅館でも、疲れると、本なども読まずに横になっていた。「ただ天井の節穴を数えている。頭を休ませておくことができる人だった」とも。

### 「ぼんやりすること」大切

山田監督は「寅さん映画は、心の病がある人や精神障害のある人たちが愛好してくれる。病んだ心を癒やす力を持っているのかな」と語り始めた。

心に残るエピソードとして、渥美さんがフアン少年にカセットテープで贈った声の手紙を紹介した。脳性まひの重い障害がある少

「忙しすぎる時代に生きる市民へのメッセージを」と、司会を務めた広島大学大学院の山脇成人教授(精神神経医科学)から問い掛けられると、「ぼんやりすること」の大切さを強調した。

寅さんが、古い寺の座り、駅で買ってきたあんぱんを食べながら、黙って青空を見ているシーンを撮影した時のこと。「そういう寅さんがとてもすてきだった。何もしていない、ただ『ぼんやり』と空を見ている姿が良かった」と思い返した。

う渥美清の演じる寅さん

とかが同情ではなく、少年と同じ目の高さで語り掛けている。そういう渥美清の演じる寅さん

寅さんが、古い寺の座り、駅で買ってきたあんぱんを食べながら、黙って青空を見ているシーンを撮影した時のこと。「そういう寅さんがとてもすてきだった。何もしていない、ただ『ぼんやり』と空を見ている姿が良かった」と思い返した。

寅さんが、古い寺の座り、駅で買ってきたあんぱんを食べながら、黙って青空を見ているシーンを撮影した時のこと。「そういう寅さんがとてもすてきだった。何もしていない、ただ『ぼんやり』と空を見ている姿が良かった」と思い返した。